創世紀１章１節～２章３節

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文責：ッ

# **About創世紀**

1. 名称

ヘブル語の原本には題がなく、冒頭の語「初めに」が題とされていた。

創世記という名前は「誕生、起源、発生、創始」を意味するギリシア語の訳語ένεσις（　　　　　）に由来する。

1. 著者

聖書に直接書かれているわけではないのだが、（　　　）が深く関わっている[[1]](#endnote-1)と考えられている。

→（　　　）が成立に深く関わっていると考えられている旧約聖書の最初の５つの書のことをなんというか。

2. 内容

１~11節には天地万物の創造、人の創造からアブラハムの父テラの世代までのことが、イスラエルの前史として記述されている。

12~50節にはイスラエルの民の誕生の次第が、アブラハム、イサク、ヤコブへの神の契約の進展の中で記述されている。

# **1章のあらすじ『天地の創造』**

1日目　暗闇がある中、神は光を作り、昼と夜が出来た。

2日目　神は空（天）を作った。

3日目　神は大地を作り、海が生まれ、植物が出来た。

4日目　神は太陽と月と星を作った。

5日目　神は魚と鳥を作った。

6日目　神は獣と家畜と、神に似せた人を作った。

7日目　神は休んだ。

1. これらはモーセが書いたという伝承があったのでモーセ五書と言われるが、近代以降の文書仮説では異なる時代の合成文書であるという仮説を立て、モーセが直接書いたという説を否定する。ただし保守的なキリスト教会と学者は今日もモーセ記者説を支持している。また正教会における註解書には、こうした学説の対立に触れず、「伝統的に」モーセが著者

   であるとされているという記述にとどめているものもある。

   # １日目

   　Q「地は混沌であった」(1-2)とあるが、どのような状態だろうか

   # ２日目、３日目

   　Q「神は大空を天と呼ばれた」(1-8)とあるが、１節に出てくる「天」とこの「天」は異な

   　　るものか。理由も含めて考えよ。（３日目の「地」についても同じ）

   # ４日目

   　Q４日目で神は太陽と月を作り、昼と夜、光と闇を分けさせたのだが、１日目ですでに光

   　　と闇は神によって分けられていた。なぜ新たに太陽と月をつくらなくてはならなかっ

   　　のか。

   # ５日目

   　Q「水の中に群がるもの、すなわち大きな怪物、うごめく生き物」とはどんな生き物で

   　　あるのだろうか

   # ６日目

   　Q「我々にかたどり、我々に似せて」(1-26)について、我々とは誰のことを指すのか。ま

   　　た複数形であるのはなぜか。

   　Q「種を持つ草と種を持つ実をつける木を」(1-29)とあるが、この記述から読み取れるのは「人間は肉食ではなかった」ということである。何故、人間は肉を食べるように作られていなかったのか、また肉を食べるようになったのは何がきっかけだと予想できるか。 [↑](#endnote-ref-1)